

デジタルシグナル プロセッサ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

保証書 (別添) はお求めの販売店で記入いたしますので、内容をご確認のうえ、後々のためこの説明書とともに大切に保存してください。

XDP-600EQ

**警告**

安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあります危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

この取扱説明書および別冊の「取付けと接続」の注意事項をよくお読みください。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となることがあります。

- ・ 運転者は走行中に操作をしない。
- ・ 車外の音が聞こえる程度の音量で聞く。

定期的に点検する

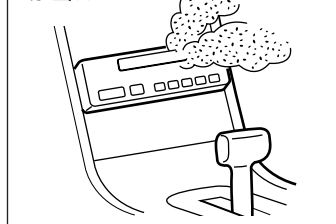
1年に1度は、電源コードに傷みがないか、振動により配線がはずれていないか、接続部分が車体と接触していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口 に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 安全な場所に車を止める
- ② 電源を切る
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口 に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および「取付けと接続」、製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡やけがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり自動車に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止

目次

△警告・△注意	4
主な特長	6
お使いになる前に	6
各部の名称と働き	7
スเปアナ機能	
スぺアナの感度とコントラスト、表示パターンを変える	9
リスニングポジションを調節する	12
サブウーファー出力を調節する	14
DSPファイル機能	
DSPファイル機能とは	15
DSPファイルを呼び出す	16
DSPファイルを登録する	17
DSPファイル登録の基本操作	17
ファイルネームをつける	18
イコライザーカーブを調節する	19
サラウンドメニューを設定する	21
DRSを調節する	23
設定した内容をメモリーする	24
CDにDSPファイルを登録する	25
DSPカスタムファイルモードで演奏する	26
ソースごとに記憶したDSPファイルで聞く	27
故障かな？と思ったら	28
主な仕様	30
保証書とアフターサービス	31

本機はDSPコントロール機能対応のマスターユニットに接続してお使いになれます。ただし、マスターユニットにDSPボタンがある場合でも、マスターユニット側ではDSP機能の操作はできません。マスターユニット側のDSPボタンは操作しないでください。



火災



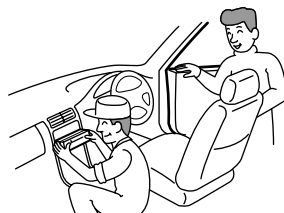
感電

下記の注意を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

取り付けはお買い上げ店に依頼する

本機の実装には専門知識が必要です。

万一、ご自分で取り付けるときは、別冊の「取り付けと接続」の説明に従って、正しく取り付けてください。正しい取り付けをしないと、火災や感電の原因となります。



内部に水や異物を落とさない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



禁止

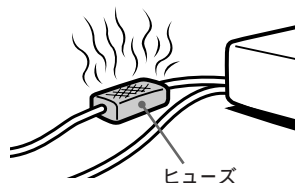


規定容量のヒューズを使う

ヒューズを交換するときは、必ず電源コードのヒューズケースまたは本体に記された規定容量のアンペア数のものをお使いください。規定容量を越えるヒューズを使うと、火災の原因となります。

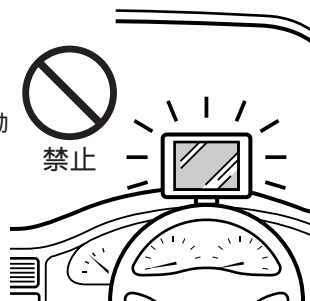


禁止



前方の視界を妨げる場所に、ディスプレイやモニターを取り付けない

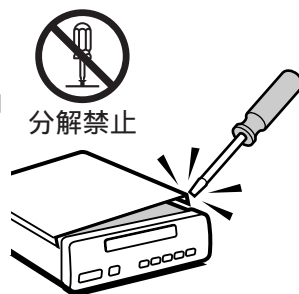
前方の視界の妨げになると、事故やけがの原因となります。
また、取り付ける場所が、助手席用エアバッグシステムの動作の妨げにならないことを確認して下さい。



分解や改造をしない

火災や感電、事故の原因となります。

内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



下記の注意を守らないと**けが**をしたり**自動車に損害**を与えたりすることがあります。

カセットテープやディスク挿入口に手を入れない

内部で手をはさまれ、けがの原因となることがあります。



主な特長

本機はソニー・バスシステム対応のスペクトラムアナライザー付きDSP(デジタルシグナルプロセッサー)です。サブウーファー出力を装備し、豊かな重低音を再現します。

スペクトラムアナライザー (スペアナ) 表示

- 刻々と変化する音声信号レベルをリアルタイムで表示する13バンドスペクトラムアナライザー
- 車内を鮮やかに演出する7種類のスペアナ表示パターン

DSP (デジタルシグナルプロセッサー) ファイル機能

- あらかじめセットされている7種類のソニーオリジナルプリセットからお好みの音場を選択したり、さらに自由に音場(DSPファイル)を設定して記憶させることができるユーザープリセット機能
- きめ細かな音質調整ができる7バンドデジタルグラフィックイコライザー
- 小さい音と大きな音の差を少なくするDRS(ダイナミックレンジサプレッサー)機能
- CDに合わせて、いつも同じ音場処理で聞けることができるDSPカスタムファイル機能
- プログラムソースごとにDSPファイルを記憶することができるラストサウンドメモリー機能

その他

- サブウーファー(別売り)の特性に合わせて調節可能なLPF(ローパスフィルター)カットオフ周波数設定機能
- マスターユニットに連動して自動的に切り換わるイルミネーション

お使いになる前に

初めてお使いになる前に

初めてお使いになるときや、自動車のバッテリーを交換したときは必ずマスターユニットについているリセットボタンを押してください。(リセットボタンを押すと記憶させたファイルネームやイコライザーカーブなどのメモリー内容は消えてしまいますので、再び記憶しなおしてください。)

取り扱いについて

- 夏季の直射日光下で窓を閉めきった自動車内は、相当な高温になります。本機が動作しなくなったときは、窓をあけて車を走らせ、車内の温度を下げてから操作してください。
- 通常の使用で本機が動作しなくなったときは、最初に配線の接続を点検して、異常がなければ、ヒューズを調べてください。

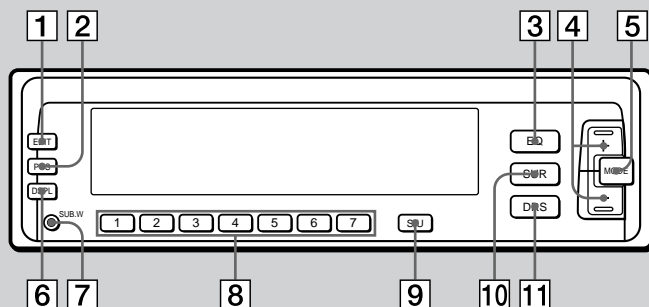
本体表面を傷めないために

本体表面に、殺虫剤やヘアスプレーをかけたり、防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品を長時間接触させないでください。本体表面が変質・変形したり、塗装がはげたりすることがあります。

ヒューズについて

ヒューズを交換するときは、必ずヒューズケースに記してある規定容量(アンペア数)のヒューズをお使いください。規定容量以上のヒューズや針金で代用すると故障の原因となるだけでなく大変危険です。

各部の名称と働き

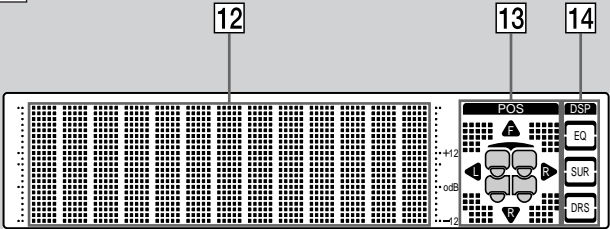


●内のページに詳しい説明があります。

- | | |
|--|---|
| <p><small>エディット</small>
 1 EDITボタン 17 18 19 21 23 24
 DSPファイルの設定や調節モードの切り換えをします。</p> <p>2 POS (リスニングポジション切り換え) ボタン 12 13
 リスニングポジションの調節および切り換えをします。</p> <p><small>イコライザー</small>
 3 EQ (イコライザー入/切) ボタン 19
 イコライザー機能を入/切します。</p> <p>4 + / - (レベル調節) ボタン 9 10 13 18 20 21 22 23
 各設定のレベルの調節、選択をします。</p> <p><small>モード</small>
 5 MODEボタン 10 13 18 22 26 27
 スペアナ表示パターンの選択や音場設定時の各モード(リスニングポジションの微調整モード、サラウンドエフェクトレベルの調節モード)の切り換えをします。また、DSPファイル登録時のファイルネームの設定をします。</p> | <p><small>ディスプレイ</small>
 6 DSPL (スペアナ表示選択) ボタン 11
 スペアナのフルスケール表示と文字入り表示を切り換えます。</p> <p><small>サブウーファー</small>
 7 SUB.W (サブウーファークットオフ周波数切り換え) ボタン 14
 サブウーファー出力のカットオフ周波数を切り換えます。</p> <p>8 プリセットナンバーボタン 16 19 24 26 27
 メモリーの呼び出し、登録をします。</p> <p><small>エクスユー</small>
 9 S/U (ソニーオリジナルDSPファイル/ユーザーDSPファイル切り換え) ボタン 16
 ソニーオリジナルDSPファイルとユーザーDSPファイルの切り換えをします。</p> <p><small>サラウンド</small>
 10 SUR (サラウンド入/切) ボタン 21
 サラウンド機能を入/切します。</p> <p><small>ディープアールエス</small>
 11 DRS (ダイナミックレンジサブレッサー入/切) ボタン 23
 ダイナミックレンジサブレッサー機能を入/切します。</p> |
|--|---|

各部の名称と働き

ディスプレイ



12 スペアナ/イコライザー表示部

上部に操作情報やファイルネームなどが表示されます。下部はスペアナとイコライザー調節の表示部です。

13 POS表示部

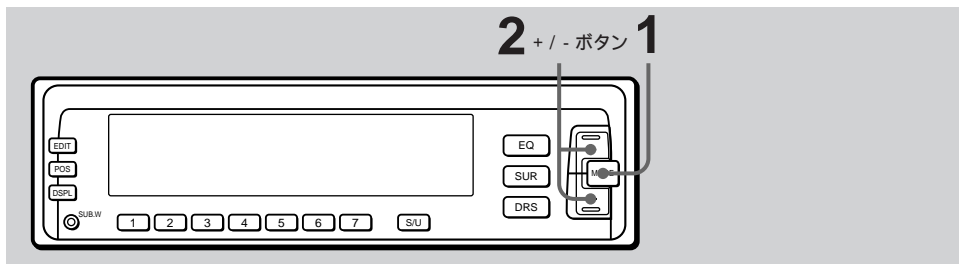
現在設定されているリスニングポジションを表示します。リスニングポジションの微調整を行っているときは点滅します。

ディーエスピー
14 DSP表示部

各DSP機能の入/切を表示します。

	イコライザー機能が働いているときに点灯します。 EQボタンで入/切します。
	サラウンド機能が働いているときに点灯します。 SURボタンで入/切します。
	DRS機能が働いているときに点灯します。 DRSボタンで入/切します。

スベアナの感度とコントラスト、表示パターンを変える



感度 (SENS LEVEL) を変える

+/- ボタンを押します。



スベアナの感度を0～10の11段階に切り換えることができます。
(数字が大きくなるほど、感度は高くなります。)

表示のコントラストを調整する

1 MODEボタンを2回押します。



2 +/- ボタンを押して、見やすい表示を選びます。



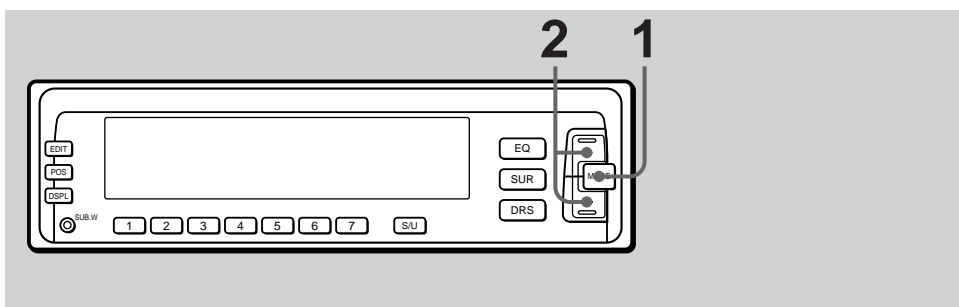
コントラストは8段階に調節できます。

もう一度MODEボタンを押すか、何も押さないでいると3秒後に感度調節ボタンに戻ります。

ご注意

表示窓に「SENS LEV 0」と表示されている場合は、スベアナの表示はされません。

スピーカの感度とコントラスト、表示パターンを変える



表示パターンを変える

1 MODEボタンを押します。

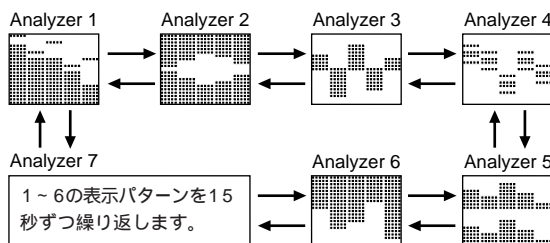


2 + / - ボタンを押して、お好みの表示パターンを選びます。

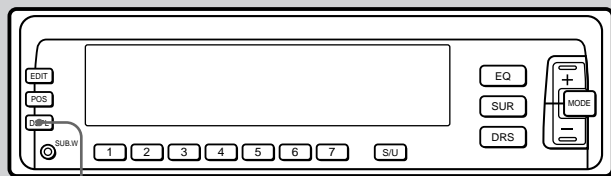


7通りの表示パターンから選択することができます。
ボタンを押すごとにスピーカ表示パターンは次のように変わります。

スピーカ表示パターン



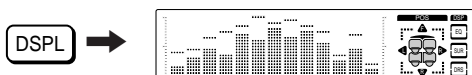
何もボタンを押さないでいると、3秒後に感度調節ボタンに戻ります。



DSPLボタン

文字表示を消す

DSPLボタンを押します。



表示窓の上部の文字表示が消えて、フルスケールのスペアナ表示になります。

文字表示付きのスペアナ表示に戻すには、DSPLボタンをもう1度押します。

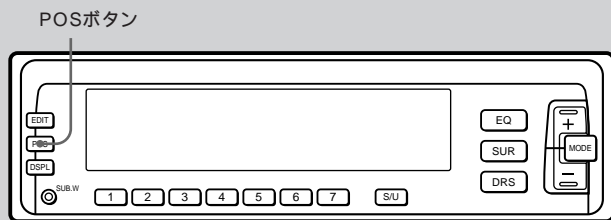
イルミネーションの色を変える

マスターユニットのイルミネーションカラーと連動して変わりますので、マスターユニット側で色を選択してください。

ご注意

照明の色が変えられないマスターユニットをお使いのときは、イルミネーションの色を変えられません。

リスニングポジションを調節する

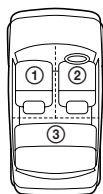


聞き手の位置が固定されるとい
う悪条件を持つ車内でも、各ス
ピーカーから聞き手への音の到
達時間を調整することにより、
車内のどこに座っていても音場
の中心にいるような快適で自然
な音場定位が得られるようにな
ります。

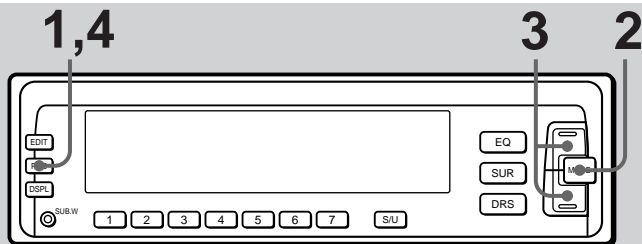
POSボタンを押して、設定したいポジションを選びます。



POSボタンを押すごとに、表示窓の表示は次のように切り換わります。



表示窓	音場の中心
LP All	通常の状態 (①+②+③)
LP Front	前方 (①+②)
LP Front R	前方の右側 (②)
LP Front L	前方の左側 (①)
LP Rear	後方 (③)



それぞれのリスニングポジションについて、音場の中心をよりきめ細かに調整することができます。

リスニングポジションをより限定する

- 1 POSボタンを2秒以上押して、リスニングポジションの微調整モードに入ります。

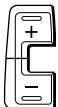
POS

- 2 MODEボタンを押して、微調整する項目を選びます。



表示窓 (調整項目)	調整の内容
LP LR. POS 0 (左右調整)	音場の中心を左右に微調整します。 (左右それぞれ16段階)
LP FR. POS 0 (前後調整)	音場の中心を前後に微調整します。 (前後それぞれ16段階)
LP L.....II.....R (左右バランス)	左右の音量バランスを調整します。 (左右それぞれ8段階)
LP R.....II.....F (前後フェーダー)	前後の音量バランス (フェーダー) を調整します。(前後それぞれ8段階)

- 3 + / - ボタンを押して、調整します。



- 4 POS ボタンを2秒以上押して、設定を終了します。

POS

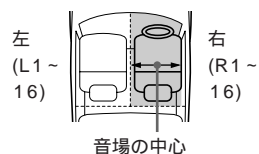
ご注意

マスターユニットのバランス調整やフェーダー調整は中央付近にセットしておいてください。マスターユニット側のバランスやフェーダーが極端に偏った調整になっていると、片側のスピーカーから音が出なかったり、音場の設定が正しく行われないことがあります。

例

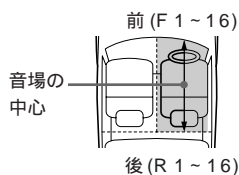
「LR FRONT R」のポジションを左右に微調整するとき

「LP LR. POS 0」(左右調整)

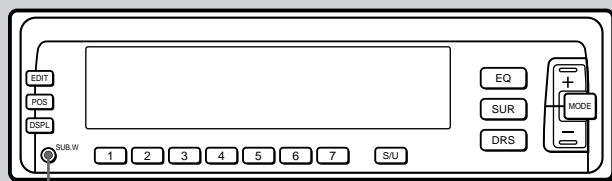


「LR FRONT R」のポジションを前後に微調整するとき

「LP FR. POS 0」(前後調整)



サブウーファー出力を調節する



SUB.Wボタン

接続したサブウーファーの周波数特性に合わせて、サブウーファー出力カットオフ周波数を選択することができます。これによって、不必要な中高域の周波数帯域を出力しないようにすることができます。

SUB.Wボタンを押します。



SUB.W 125Hz

現在のカットオフ周波数が表示されます。

SUB.Wボタンを押すごとに、カットオフ周波数が下記のように切り換わります。

→ 78Hz → 99Hz → 125Hz* → 157Hz → 198Hz →

*工場出荷時の設定値

DSPファイル機能とは

本機を利用して、テープ、CD、ラジオなどにお好みの音場処理をすることが出来ます。

DSP (デジタルシグナルプロセッサ) とは

音楽信号をデジタル化し、高速演算処理をすることにより、音質を劣化させずに音響特性などを変化させる機能のことです。DSPにより、オーディオ出力を制御して、音場の音響特性を自由に变化させることができます。

DSPファイルとは

イコライザーカーブ、サラウンドメニュー、DRSの各設定をまとめたものを1つの「DSPファイル」と呼びます。

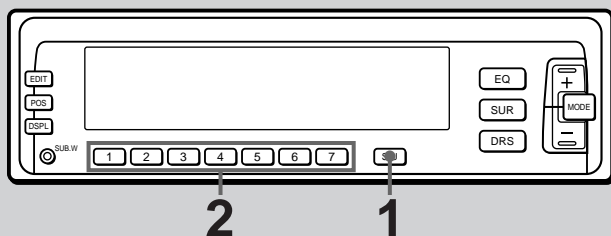
本機にはメーカー設定された7種類の「ソニーオリジナルDSPファイル」がプリセットされています。また、自分で自由に設定したものを、「ユーザーDSPファイル」として7種類まで登録できます。

DSPファイル登録モード

以下のような選択/調節モードを設定して、ユーザーDSPファイルを登録します。(17ページから)

- ファイルネーム(18ページ)
- イコライザーカーブ調節モード(19ページ)
- サラウンドメニュー選択モード(21ページ)
- DRSエフェクトレベル選択モード(23ページ)

DSPファイルを呼び出す



メーカー設定された7種類のソニーオリジナルDSPファイルを選ぶことができます。
またユーザーが独自に設定したDSPファイルも呼び出すことができます。(ユーザーDSPファイルのメモリーのしかたは、次のページ以降を参照してください。)

- 1 S/Uボタンを押して、ソニーオリジナルDSPファイル (S1～S7) かユーザーDSPファイル (U1～U7) を選びます。

S/U

- 2 お好みのプリセットナンバーボタン(1～7)を押します。

1 ~ 7



S1 Heavy

ソニーオリジナルDSPファイルの
プリセットナンバー1を選んだ場合

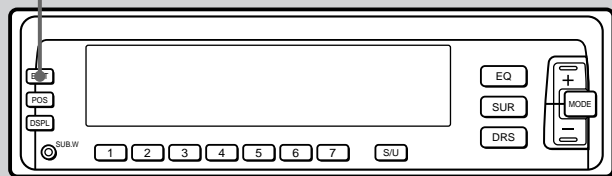
ソニーオリジナルDSPファイル一覧

S1 Heavy	低音と高音を強調した迫力あるサウンド
S2 Mellow	中低音をバランスよく強調したやわらかいサウンド
S3 Vocal	ボーカルを強調したリズム感のあるサウンド
S4 Dynamic	ボーカルおよび低音を強調した幅広いサウンド
S5 Disc Jockey	人間の声を聞きやすくしたスタジオサウンド
S6 Relaxation	BGMなどを聞くのに適したあたたかく落ちついたサウンド
S7 Loudness	小音量でも低音と高音が強調され、かつ人間の耳の特性にあった自然なサウンド

別売りのTVチューナーユニットとTVモニターを接続した場合、選択しているDSPファイルのファイルネームがモニター上に表示されます。この場合は、大文字のみの表示になります。

DSPファイルを登録する

2



好みの音場でお聞きになるために、ファイルネーム、イコライザーカーブ、サラウンドメニュー、およびDRSエフェクトレベルをDSPファイルとしてプリセットナンバーボタンのメモリーに記憶させておきます。

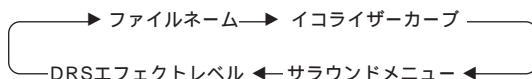
DSPファイル登録の基本操作

1 マスターユニットでプログラムソース（CD、ミニディスク、テープ、ラジオ、テレビ、AUX、VIDEO）を選び、演奏します。

2 EDITボタンを2秒以上押して、DSPファイル登録モードに入ります。

EDIT

EDITボタンを短く押すごとに、設定項目は下記のように切り換わります。

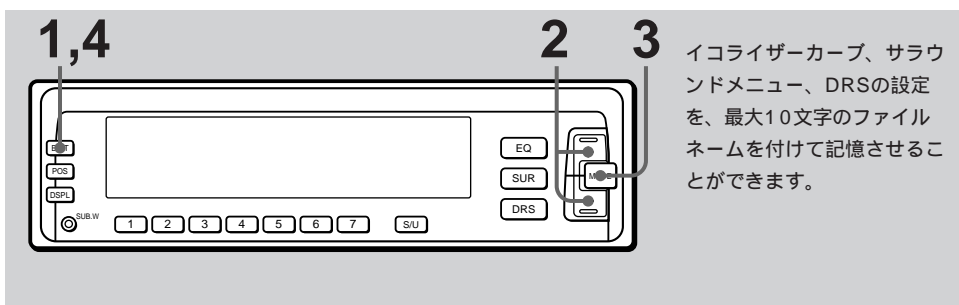


次ページ以降の手順に従って、ファイルネーム、イコライザーカーブ、サラウンドメニューおよびDRSエフェクトレベルの各設定を行います。

ご注意

マスターユニットにDSPボタンがある場合でも、マスターユニット側ではDSP機能の操作はできません。マスターユニット側のDSPボタンは操作しないでください。

DSPファイルを登録する



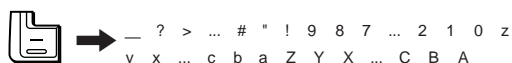
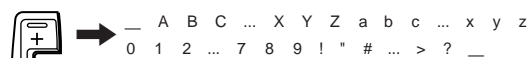
ファイルネームをつける

- 1** 前ページのDSPファイル登録の基本操作の手順1、2を参照して、DSPファイルネーム登録モードに入ります。



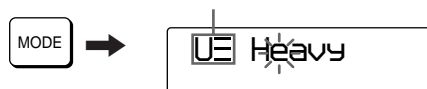
- 2** + / - ボタン を押して、名前に使いたい文字や数字を探します。

下記の順で文字が入力できます。



- 3** MODE ボタンを押して、点滅している箇所を次へ移動させます。

Uがユーザーメモリーを表します。

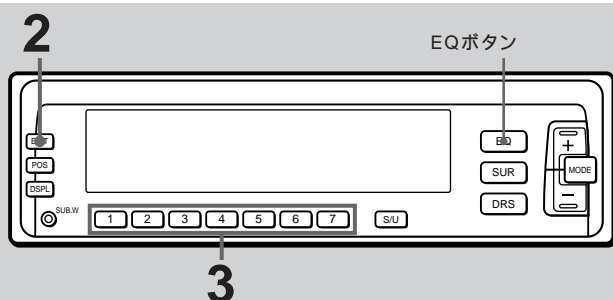


手順2と3をくりかえします。10文字まで入力できます。

- 4** EDITボタンを短く押して、次の設定に進むか、24ページを参照して、DSPファイルの登録を終了してください。

空白（スペース）を入れたいときは「_」（アンダーバー）を入力してください。

- 一番右側（10番目）の文字が点滅しているときにMODEボタンを押すと、点滅が一番左に移ります。
- 別売りのTVチューナーユニットとTVモニターを接続した場合、選択しているDSPファイルのファイルネームがモニター上に表示されます。この場合は、大文字のみの表示になります。

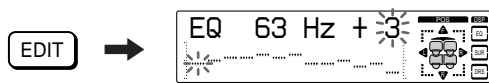


7バンドに分けて音質の調整ができます。

イコライザーカーブを調節する

1 17ページのDSPファイル登録の基本操作の手順1、2を参照して、DSPファイル登録モードに入ります。

2 EDITボタンを短く押して、イコライザーカーブ調節モードに入ります。



3 調節したい周波数のプリセットナンバーボタン(1～7)を押します。



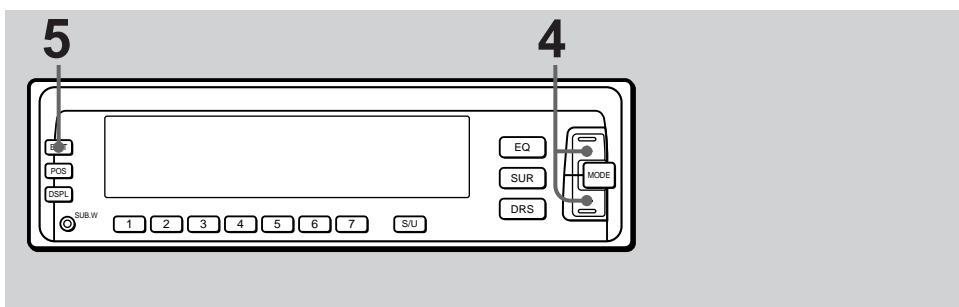
プリセット ナンバーボタン	周波数	
1	63 Hz	重低音の調整
2	160 Hz	低音がこもるときなど、 低音を増強するとき
3	400 Hz	ボーカルおよび楽器の基 本音域
4	1 kHz	ボーカルの臨場感を出し たいとき
5	2.5 kHz	金管楽器の明るさ、打楽 器の歯切れの良さを強調
6	6.3 kHz	軽やかなタッチの演出
7	16 kHz	最高音域

ご注意

イコライザー機能を「入」にしてから調節を行ってください。
(DSP表示部に「EQ」表示が出ていることを確認してください。)

イコライザー機能を入/切するには、EQボタンを押します。

DSPファイルを登録する



4 + / - ボタンを押して、レベルを調節します。



5 EDITボタンを短く押して、次の設定に進むか、24ページを参照して、DSPファイル登録を終了してください。

各周波数のレベルは+、- それぞれ12段階に調節できます。

ご注意

「EQ」がOFFのまま、DSPファイルの登録を終了するとイコライザーがかからないままメモリーされます。

音がひずんだときは

周波数によってはレベルを上げすぎると音がひずむときがあります。この場合、マスターユニット側で以下の操作をしてください。

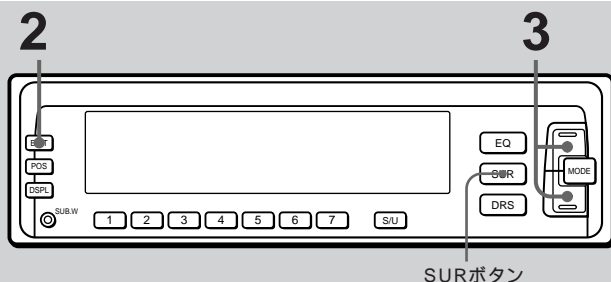
SOUNDボタンのないマスターユニットの場合

SELボタンを押しながらプリセットナンバーボタン8を押してください(もう1度同じ操作をすると解除されます)。

SOUNDボタンのあるマスターユニットの場合

SHIFTボタンを押して、プリセットナンバーボタン8 (SET UP) を「L.OUT」の表示が出るまで押し、プリセットナンバーボタン10 (→) で (-16 dB) を選んで下さい。

音量は下がりますが、音のひずみをおさえることができます。このときスピーカの振れ方が小さくなりますが、スピーカの感度を高くしてお使いください
(9ページ「感度 (SENS LEVEL) を変える」参照)。



本機にはあらかじめ7種類のサラウンドメニューがセットされています。
音楽の雰囲気に合わせてサラウンドメニューを選ぶことにより、音響的に制限のある車内でも、より臨場感や存在感にあふれる音楽を楽しむことができます。

サラウンドメニューを設定する

1 17ページのDSPファイル登録の基本操作の手順1、2を参照して、DSPファイル登録モードに入ります。

2 EDITボタンを短く押して、サラウンドメニュー選択モードに入ります。



3 + / - ボタンを押すごとに、サラウンドメニューが次のように変わります。



サラウンドメニュー一覧

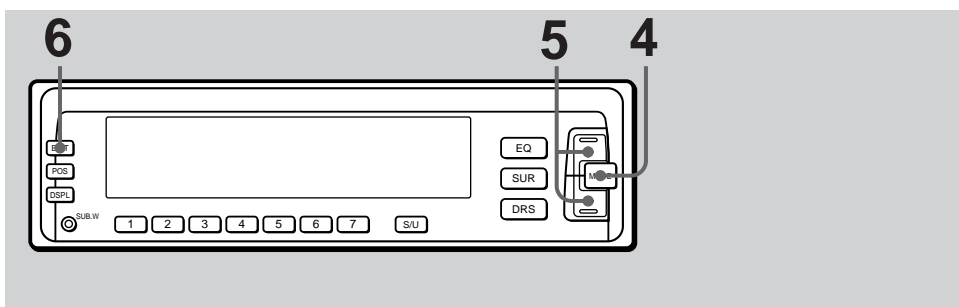
STADIUM	野外スタジアムでのコンサートの雰囲気
DISCO	堅い壁と床のディスコの雰囲気
THEATER	映画館の雰囲気
CHURCH	残響音の多い教会の雰囲気
HALL	コンサートホールの雰囲気
STUDIO	残響音の少ない録音スタジオの雰囲気
KARAOKE	ボーカルの音域を減衰させます

ご注意

サラウンド機能を「入」にしてから調節を行ってください。(DSP表示部に「SUR」表示が出ていることを確認してください。)

サラウンド機能を入/切するには、SURボタンを押します。

DSPファイルを登録する



- 4** MODEボタンを押して、エフェクトレベル調節モードに入ります。



- 5** + / - ボタンを押して、エフェクトレベルを調節します。



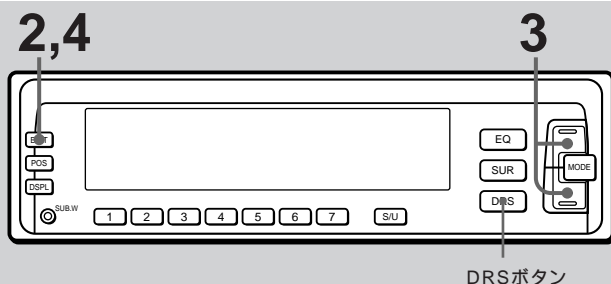
MODEボタンを再び押すと、サラウンドメニュー選択モードに戻ります。

- 6** EDITボタンを短く押して、次の設定に進むか、24ページを参照して、DSPファイルの登録を終了してください。

エフェクトレベルは10段階に調節できます。(エフェクトレベルの数字が大きくなると、サラウンドの効果がより大きくなります。)

ご注意

「SUR」がOFFのまま、DSPファイルの登録を終了するとサラウンドがかからないままメモリーされます。



DRSボタン

DRS(ダイナミックレンジサプレッサー)は入力信号のダイナミックレンジを圧縮し、ひずみを発生させることなく平均出力レベルを上げることができます。音量を下げてもパワフルな音量感が得られ、車内で外部騒音によって小さな音が聞こえにくくなるのを防ぐ効果があります。

DRSを調節する

- 1 17ページのDSPファイル登録の基本操作の手順1、2を参照して、DSPファイル登録モードに入ります。

- 2 EDITボタンを短く押して、DRSエフェクトレベル選択モードを選びます。



- 3 +/- ボタンを押して、DRSエフェクトレベルの調節をします。



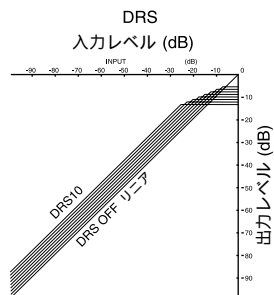
エフェクトレベルは、10段階に調節できます。エフェクトレベルの数字は、大きくなるほど圧縮比が大きくなり、大きな音と小さな音の差が少なくなります。

- 4 EDITボタンを短く押して、次の設定に進むか、次ページを参照して、DSPファイルの登録を終了してください。

ご注意

DRS機能を「入」にしてから調節を行ってください。(DSP表示部に「DRS」表示が出ていることを確認してください。)

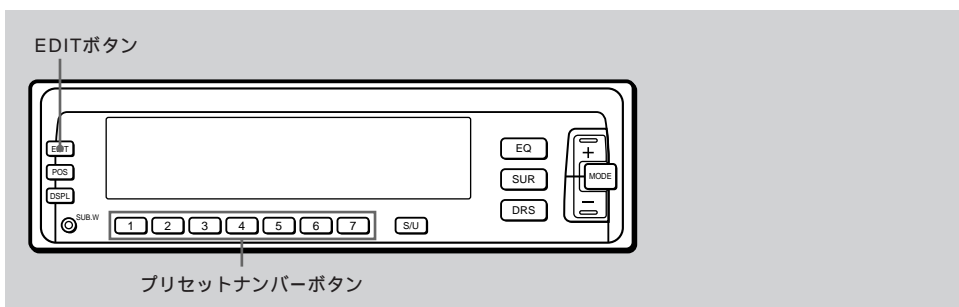
DRS機能を入/切するには、DRSボタンを押します。



ご注意

「DRS」がOFFのまま、DSPファイルの登録を終了するとDRSがかからないままメモリーされます。

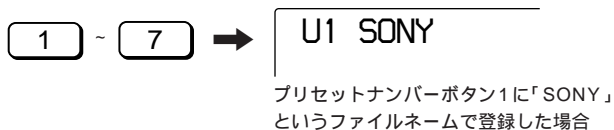
DSPファイルを登録する



設定した内容をメモリーする

以上の設定が終わったら、プリセットナンバーボタンにメモリーします。

メモリーさせたいプリセットナンバーボタンを2秒以上押します。



設定した音場がプリセットナンバーボタンに記憶され (U1 ~ U7)、DSPファイル登録が完了します。

設定した内容をメモリーしない場合は、EDITボタンを2秒以上押します。



設定した内容は記憶されません。

現在聞いている音場をメモリーする

そのままプリセットナンバーボタン (1 ~ 7) を2秒以上押すとメモリーされます。

ご注意

- ファイルネーム、イコライザーカーブ、サラウンドメニュー、DRSエフェクトレベルは、一組となってプリセットされます。ファイルネームのみ、イコライザーカーブのみなどでプリセットすることはできません。もし、ひとつの設定だけを記憶させたいときは、残りの設定項目はすべて機能をOFFにして登録してください。
- ソニーオリジナルDSPファイルも、自由に設定を変更し、ユーザーDSPファイルにメモリーできます。
- すでにプリセットされているボタンに新たにメモリーすると、古い内容は消去されます。

CDにDSPファイルを登録する (DSPカスタムファイル機能)

それぞれのディスクに1度DSPファイルを登録すると、いつでもお好みのDSPファイルで音場処理された音楽を楽しむことができます。

この操作は、マスターユニットで行います。

- 1 任意のディスクを演奏します。
- 2 マスターユニットのLISTあるいはFILEボタンを2秒以上押して、名前エディットモードに入ります。
名前が登録されていない場合は、マスターユニットの動作表示窓に「—————」が表示されます。
マスターユニットの取扱説明書の「ディスクの名前を表示するには」の項目を参照して名前をつけます。
- 3 マスターユニットのLISTあるいはFILEボタンを短く2回押して、DSPカスタムファイル登録モードに入ります。
- 4 マスターユニットの+/- ボタンを押して、ユーザープリセットナンバーを選びます。
+/- ボタンを押すごとに、本機の表示部に次の順番でプリセットナンバーとファイルネームが現れます。(マスターユニットの表示部は、ファイルネームのみの表示となります。)



➡ ... U1 U2 U3 U4 U5 U6 U7 NO ENTRY U1 ...



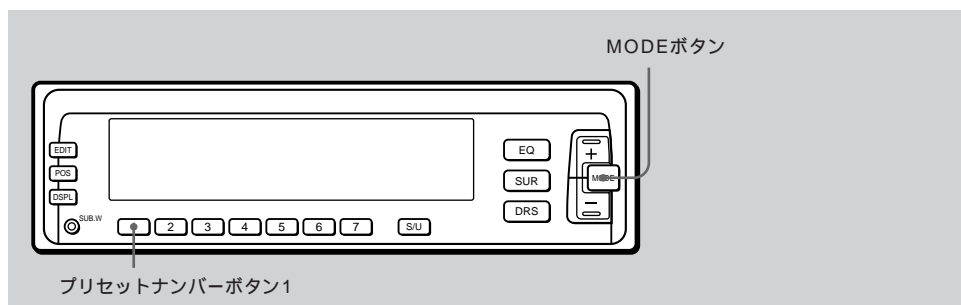
➡ ... U1 NO ENTRY U7 U6 U5 U4 U3 U2 U1 ...

- 5 マスターユニットのLISTまたはFILEボタンを2秒以上押します。

ご注意

- DSPカスタムファイルの登録は、必ずディスクに名前をつけてから行ってください。(くわしくは、マスターユニットの取扱説明書をご覧ください。)
- マスターユニットにCDチェンジャー(カスタムファイル対応)を接続していない場合、この機能は働きません。
- DSPカスタムファイル登録中は、本機のボタンは機能しません。

一別売りのCDチェンジャーをマスターユニットに接続した場合



DSPカスタムファイルモードで演奏する

ディスク演奏中に本機のMODEボタンを押しながらプリセットナンバーボタン1を押します。



通常の演奏モードに戻すには、もう1度本機のMODEボタンを押しながらプリセットナンバーボタン1を押します。

登録したDSPファイルを変更する

プリセットナンバーを変更したいディスクを演奏し、前ページの手順2から5の操作を行ってください。

登録したDSPファイルを消す

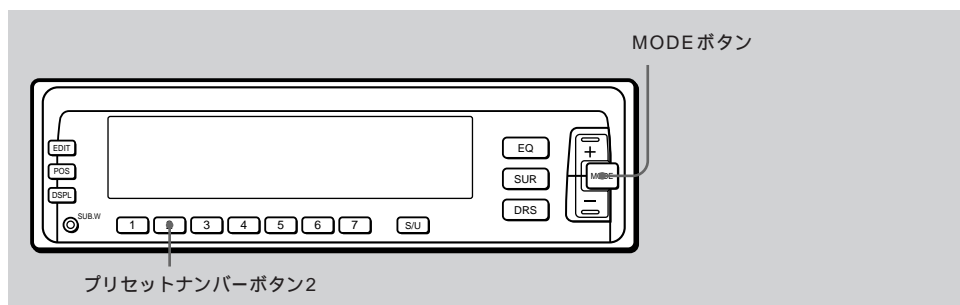
前ページの手順4で「NO ENTRY」を選んでください。

ご注意

マスターユニット側にDSPボタンがある機種では、マスターユニット側のDSPボタンを使わずに、本機のボタンで操作してください。

ソースごとに記憶したDSPファイルで聞く

(ラストサウンドメモリー機能)



LSM (ラストサウンドメモリー) 機能とは

CD、テープ、ラジオなどプログラムソースごとに最後に選んだDSPファイルを記憶している機能です。ソースを変えたあとや、電源の入/切にかかわらず、以前にそのソースで選んだDSPファイルで聞くことができます。

LSM 機能で演奏する

MODEボタンを押しながらプリセットナンバーボタン2を押します。



LSM機能を解除するには、もう1度MODEボタンを押しながらユーザープリセットナンバーボタン2を押します。

例えば、LSM機能「入」の状態
で

CDを「S2」 テープを「U3」
ラジオを「U2」の順で聞いたあとで、再びCDに切り換えると、自動的にプリセットナンバーも「S2」に切り換わり、続いてテープに切り換えるとプリセットナンバーも「U3」に切り換わりま
す。

ご注意

- LSM機能「入」の状態でも、DSP カスタムファイル機能 (25ページ)でCDを演奏させると、それぞれのディスクに登録したユーザープリセットナンバーに自動的に切り換わりま
す。
- マスターユニット側のLSMボタンは機能しません。LSM機能は本機で操作してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因 処置
電源が入らない	ヒューズが切れている。 ヒューズを交換する。
	バスケーブルが接続されていない、または誤った接続がされている。 正しく接続する (取り付けと接続編参照)。
	接続しているマスターユニットの電源が入っていない。 マスターユニットの電源を入れる。
音が出ない	ピンコードが接続されていない、または誤った接続がされている。 正しく接続する (取り付けと接続編参照)。
	マスターユニットの音声出力/入力切り換えスイッチが①側になっている。 本機をマスターユニットと接続してお使いになるときは②側に切り換えてください (マスターユニットの取り付けと接続編参照)。
大音量が出る	マスターユニットのLINE OUT/LINE IN (EQ IN) スイッチがLINE OUT側になっている。 本機をマスターユニットと接続してお使いになるときはLINE IN側に切り換えてください (マスターユニットの取り付けと接続編参照)。
DSP効果がない	DSP機能がOFFになっている、またはエフェクトレベルが極端に小さい。 EQ、SUR、DRSボタンでそれぞれの機能をONしてください。またDSPファイルの設定でエフェクトレベルを調節してください (本文参照)。
	メモリーされてないユーザープリセットが選択されている。 ソニーオリジナルプリセットを選択するか、お好みのDSPファイルを登録してください (本文参照)。

故障かな?と思ったら

症状	原因 処置
リスニングポジションの設定ができない	マスターユニットのバランスまたはフェーダーが偏った設定になっている。 本機をお使いになるときはマスターユニットのバランスおよびフェーダーは中央付近に設定してお使いください。
DSPカスタムファイルが設定できない	DSPカスタムファイル機能はカスタムファイル対応のCDチェンジャーでなければ動きません。 カスタムファイル対応のCDチェンジャーをお使いください。
イコライザーON時に音がひずむ	イコライザー機能で音を強めすぎている。 マスターユニットにSOUNDボタンがない場合 SELボタンを押しながらプリセットナンバーボタン8を押してください (もう1度同じ操作をすると解除されます)。 マスターユニットにSOUNDボタンがある場合 SHIFTボタンを押してプリセットナンバーボタン8 (SET UP) を「L.OUT」の表示が出るまで押しプリセットナンバーボタン10 (→) で (-16 dB) を選びます。 それでもひずむときはレベルを上げた周波数のレベルを下げてください (19、20ページ)。
スピーカが振り切れる	スピーカの感度大きすぎる。 感度を下げてください (9ページ)。 音源の出力レベルが大きいの。 マスターユニットにSOUNDボタンがない場合 SELボタンを押しながらプリセットナンバーボタン8を押してください (もう1度同じ操作をすると解除されます)。 マスターユニットにSOUNDボタンがある場合 SHIFTボタンを押してプリセットナンバーボタン8 (SET UP) を「L.OUT」の表示が出るまで押しプリセットナンバーボタン10 (→) で (-16 dB) を選びます。
スピーカが振れない	スピーカの感度が0になっている。 感度を上げてください (9ページ)。

以上の処置を行っても改善が見られないときは故障と考えられます。その場合は、お買い上げのお店または、お近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

主な仕様

中心周波数 63Hz、160Hz、400Hz、
1kHz、2.5kHz、6.3kHz、
16kHz

可変範囲 $\pm 12\text{dB}$

サブウーファー-LPF

カットオフ周波数
78Hz、99Hz、125Hz、
157Hz、198Hz
スロープ -48dB/oct

周波数特性 20Hz～20kHz ($+0$
 -1dB)

SN比 (フラット時)

85dB以上

ひずみ率 0.008%

利得 0dB

入力端子 RCAピン端子

出力端子 RCAピン端子

電源 DC12Vカーバッテリー
(マイナスアース)

消費電流 0.6A

本体寸法 約178×50×170mm
(幅/高さ/奥行き) 突起部含まず

取付寸法 約178×50×153mm
(幅/高さ/奥行き) 突起部含まず

質量 約700g

付属品 取り付け/接続部品 (一式)
取扱説明書 (1)
ソニーご相談窓口のご案内 (1)
保証書 (1)

別売りアクセサリー

バスケーブル
(RCAピンコード付属)
RC-61 (1m)、RC-62 (2m)
RCAピンコード
RC-63 (1m)、RC-64 (2m)、
RC-65 (5m)

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを
この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは
お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。くわしくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではカーオーディオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ソニー株式会社 〒141 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

東京(03)5448-3311 名古屋(052)232-2611 大阪(06)539-5111

Printed in Japan